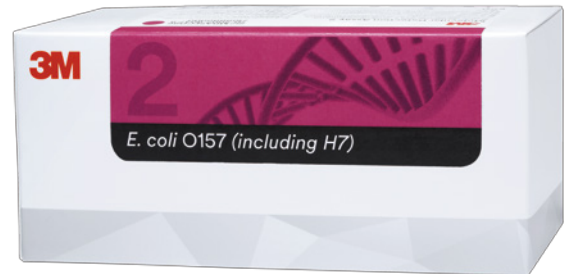


3M™ 病原菌検出アッセイ2 E. coli O157 (H7を含む)用

「食品衛生検査指針 微生物編2015」で示されている
第三者認証を得た試験法です。

3M独自の検出テクノロジーによって、
よりシンプルな手順、より短い測定時間で
E. coli O157 (H7を含む)を
検出できるようになりました。



取得認証
AOAC Intl.
OMA #2017

特長 1

ライシス液及び試薬の改良により、陰性までの測定時間が
60分まで短縮され、迅速に試験を実施できます。

1 《一次選択増菌》



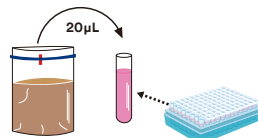
41.5 ± 1°C
8~24時間

2



ライシスチューブは使用する前に
反転させ混和して下さい。

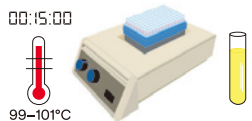
3



増菌培養後、ライシスチューブに
20µL 移し替えます。

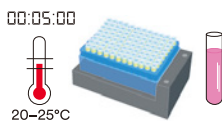
8~24時間

4



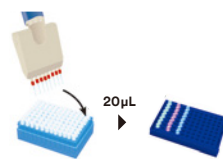
00:15:00
99-101°C
ライシスチューブを100 ± 1°C、
15分間加熱します。

5



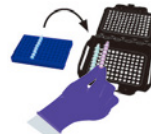
00:05:00
20-25°C
20~25°Cで
5~10分間冷却します。

6



上澄みを試薬チューブに20µL 移し替え、
ピペットで5回チューブ内の液を攪拌さ
せます。付属のキャップでシールします。

7



スピードローダートレイに
チューブを移し替えます。

8



00:60:00
スピードローダートレイを機器
にセットし、スタートさせます。

60分で陰性判定

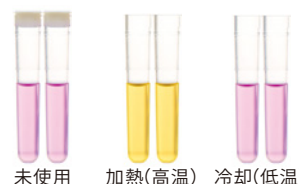
最短15分で陽性判定

2時間以内

特長 2

色変化による目視確認や誤判定を防ぐテクノロジーで、
よりシンプルな操作を実現します。

- ライシス液の加熱処理が試薬の色変化によって目視で確認
できます。(低温:ピンク色、高温:黄色)
- 3M独自のテクノロジーによりライシス液の加熱時に
試料の不純物が自然に取り除かれ、誤判定を防ぎます。



加熱、冷却時は
キャップ不要です。

3M™ 病原菌検出アッセイ2 *E. coli* O157 (H7を含む) 用

キット内容



- 1 試薬チューブ
- 2 ライシスチューブ
- 3 試薬チューブ用キャップ
- 4 陽性コントロール(8本/袋×2)

※陰性コントロールは含まれていません
 ※陰性コントロールとして、ペプトンを含む減菌済みの液体培地(緩衝ペプトン水、ハーフフリーザーブロスなど)を使用します

ご準備いただく培地



3M™ 緩衝ペプトン水 (BPW-ISO)

増菌培養	培養時間	培養温度
3M™ 緩衝ペプトン水 (BPW-ISO)	8~24時間	41.5±1.0°C

試薬 培地

製品番号	製品名	サイズ・容量	保存条件
MDA2ECO96	3M™ 病原菌検出アッセイ2 <i>E. coli</i> O157 (H7を含む)	96ウェル/キット	冷蔵2~8°C
MDMC96AP	3M™ マトリックス コントロール 病原菌自動検出システム用		
BPW500	3M™ 緩衝ペプトン水 (BPW-ISO)	500g/本	室温15~25°C

仕様及び外観は予告なく変更されることがありますのでご了承ください。本書に記載してある事項、技術上のデータ並びに推奨はすべて当社の信頼している実験に基づいていますが、その正確性、もしくは完全性について保証するものではありません。使用者は使用に先立って製品が自己の用途に適合するか否かを判断し、それに伴う危険と責任のすべてを負うものとします。売主及び製造者の義務は不良であることが証明された製品を取り替えることに限定され、それ以外の責任は負いません。本書に記載されていない事項もしくは推奨は売主及び製造者の役員が署名した契約書によらない限り当社は責任を負いません。

3Mは3M社の商標です。

取扱店



スリーエム ジャパン株式会社
 フードセーフティ製品部
<http://go.3M.com/foodsafety.jp>



Please Recycle. Printed in Japan.
 © 3M 2020. All Rights Reserved.
 MIC-226-C

カスタマーコールセンター

製品のお問い合わせはナビダイヤルで
0570-011-321
 8:45~17:15 / 月~金 (土日祝年末年始は除く)